

障がい者の社会への“完全参加と平等”を！

ときめき Fukuoka

2018.1
No. 237

早良ひまわりハウス1

基幹相談支援センター

特集

グループホームでの生活と支援 ～早良ひまわりハウスより～

- 福障協だより 「障がい者週間記念のつどい報告～歌い踊りしゃべった1万人集う」
- 身障協会だより 「新年のごあいさつ 身障協会各構成団体長」
「輝け!! 私たち年男・年女」
- 1月・2月の福祉用具情報 ～福岡市介護実習普及センターより～

特集 グループホームでの生活と支援

～早良ひまわりハウスより～

1. 開設に至る経緯

社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会では、昨年4月に福岡市早良区に早良ひまわりハウス1を、6月に早良ひまわりハウス2を開設しました。

(以後、ハウス1とハウス2と表記いたします)

ひまわりハウスを開設する取り組みは3年ほど前に保護者会で実施した親亡き後の終の棲家に関するアンケートがきっかけですが、その中では安心安全な住まいを希望する意見が多くありました。

その後、法人と保護者で会議を持ち、求められる安全安心な住まいについて機能等の整理を行いました。案をまとめ、親亡き後の支援体制として、福岡市に対して育成会での取り組みを説明しご理解いただきました。

◆概要・コンセプト・特色

ハウス1とハウス2は同じ敷地内にあり1,000㎡弱です。ハウス1にはグループホーム(定員10名)の他、短期入所施設、親子体験室、市障がい者基幹相談支援センター、特定相談支援事業所を設けています。ハウス2はグループホーム(定員5名)です。

最寄りのバス停から徒歩5分です。隣のバス停には営業所があり、バスの便数が多く、利用者の中にはバスを使って事業所に通っておられる方もいます。

ハウスには生活支援員、世話人を配置し、別に夜間勤務員とし各々1名を配置し24時間いつでも誰かが身近にいる安全安心な体制を整えています。

終の棲家のコンセプト・特色に通じますが、親子体験室はわが子を囲いがちになる知的障害のある方の保護者に本人の一人住まいへの後押しをしたいと思う気持ちから設置しました。

利用者、保護者の様子から、開設当初は親子離れがたい雰囲気が伝わってきましたが、最近では少し落ち着いた関係になりつつあるのかなと感じます。

週末にはグループホームから自宅に帰る、何かあれば連絡を取り合う。

寂しい気持ちはある半面、わが子が他人の中で暮らしていくことが出来るようになった状況に親としての喜びを感じておられるのではないかと思います。

(文責：福岡市手をつなぐ育成会 理事長 向井 公太)



ひまわりハウス1



ひまわりハウス2

2. ホームの一日の流れ

起床・朝食・出勤

入居者の皆さんは、朝4時過ぎを筆頭におおよそ、6時30分ごろには、皆さん起床されます。世話人は毎朝6時に出勤し朝食の用意を行い、7時頃には朝食が始まります。その後、自主通勤の方は早々に出かけられ、日中事業所の送迎車の迎えで出勤されます。自主通勤の方は、バス、地下鉄などを使用しながら通勤されています。送迎車利用の方は、送迎車両が到着するまでの間、皆さんリビングでテレビなどご覧になりながら待たれていらっしゃいます。

また、なかには平日お休みの利用者さんもいらっしゃいます。その方たちには昼食の提供も行っています。お休みの方は、通院だったりお買い物に出かけたりされます。その際、職員が同行する場合があります。

帰宅・夕食・入浴・余暇・就寝

夕方16時過ぎから皆さんハウスに帰ってこられます。その後、順番に入浴をされます。入浴については10名定員のハウス1（ハウス2は定員5名）では、全員の入浴が終わるのが20時ごろになります。その間、18時30分前後に夕食が始まります。入浴、夕食後の過ごし方は、早めに居室に戻られて過ごされる方やリビングでテレビを見られたり他の方々と歓談される方と様々です。ハウスでは決まった就寝時間は決めていないのですが、概ね21時過ぎには皆さん居室に戻られその後就寝されています。

週末は、ご自宅に帰省される方もいらっしゃいますが、半数以上の方がハウスで過ごされます。過ごし方は様々で事業所の休日余暇支援に参加されたり、公共交通機関を利用して出かけられたりされます。また、ハウス内でテレビを見られたり、ゲームをされたり、利用者の方や職員とトランプやオセロなどをして過ごされる方もおられます。時には、職員同行で地域のイベント（夏祭りなど）に参加することもあります。また、GWやお盆、年末年始など大半の方がご自宅に帰省されますが、ご家庭の状況などにより帰省されない方も数名いらっしゃいます。おそらく今後は同じような方が増えてこれられると思われれます。その為には、より一層、入居者の皆さんが楽しく過ごせる雰囲気作りが必要だと考えています。



世話人さん食事準備中です



送迎車で通勤～ホームへ帰宅



テーブルを囲んで夕食タイム



食後のひととき憩いの時間

3. グループホームの利用をはじめから現在の心境

★入居者の声

(1) 入居してよかったことはどんなことですか。

- ・他の入居者の方とお話ができ楽しい。
- ・規則正しい生活リズムと食事で増加していた体重が減って健康になった。
- ・以前いたグループホームでは、周囲にマンションなどが多く騒がしかったが、こちらは、自然が身近にあり静かに生活できるのがよい。
- ・食事が美味しいのが嬉しい。
- ・毎日、お風呂に入れるのが嬉しい。

(2) 今後、ハウスで取り組んで欲しいことはありますか。

- ・イベント（お祭り）などがあるとよい。
- ・カラオケなどがハウスでできるとよい。
- ・外食がしてみたい。

★保護者の声

(1) 入居希望された際のお気持ちをお聞かせ下さい。

- ・保護者自身の高齢により本人のこともふくめ、一年先の見通しも立たない状況だったので、今回のハウスの募集が良いタイミングと思い申し込みを決めた。
- ・親子で離れて暮らすのは、心残りであったが、一度離れて暮らしてみても、寂しくなれば、自宅に戻ってもよいという気持ちで入所したが、今では本人はまったく寂しさも感じておらず、GHの生活を楽しんでいる。

(2) お子様がGH入所されてからのお気持ちをお聞かせください。

- ・本人のためにと考えていたが、実際子供が入所したことで自分自身の生活に余裕ができて、今では自分自身も支援をいただいた気分になった。

(3) 今後、早良ひまわりハウスに期待されることはありますか。

- ・数年たって異動などで職員の入替わりがあっても、本人の支援が継続的にしていただくようお願いしたい。
- ・本人がいつまでも快適に過ごせるようにして欲しい。

今回、利用者、保護者の皆様に入居に関してのご意見をお聞きして、喜んでいただけていることに胸をなでおろした次第です。と同時に、ご要望をお聞きして、まだまだ、皆様にご満足を感じていただくためには、ハード面、ソフト面の両面で整備が必要と痛感しました。今後とも入居者様の生活の充実を図るため、日々、努力してまいります。

(文責：早良ひまわりハウス 統括施設長 荒井 晃紀)